

第55期（2006年10月期）日本語研修コース

鹿 島 央

日本語研修コースは前期と後期の受け入れ留学生の数に違いがみられるようになっている。特に、研究留学生の数は減少しているのが最近の傾向である。

1. 研修生

A. 大使館推薦（研究留学生、教員研修生）

文部科学省より配置された大使館推薦の国費留学生は、11ヶ国20名で、うち5名は日韓理工系学部予備教育生である。残り15名のうち、11名が教員研修生で、残りの4名が研究留学生であった。進学先は名古屋大学7名、愛知教育大学6名、滋賀大学が2名であった。今回の研修生の15名の内、4名は中級以上の学習者であった。残りの11名の中で名古屋大学進学者1名（インド：工学研究科）は、未習者であったが、研究活動のため全学向け日本語講座（SJ101）を受講した。

B. 学内公募（国費留学生）

今期も法学研究科から国費特別コース5名およびJICE（日本国際協力センター）支援無償留学生（JDS）11名（このうち6名は初級前半レベル、残りの5名は中級レベル）の中から日本語研修コースには初級相当の11名を受け入れた。残りの5名については、昨年度と同様に午前中は全学日本語プログラムの集中日本語コースを受講し、午後の1コマについてはJICE（日本国際協力センター）の資金協力を得て実施した読解を中心とした特別クラスに参加した。

以上のように、第55期日本語研修コースは国費大使館推薦留学生10名、学内推薦留学生11名の合計21名であった。

2. クラス編成

授業は、3クラス編成とし、専任教員2名、非常勤講師11名の計13名が担当した。

3. 時間割と日程

時間割は52期と同様である。

コースの日程は以下の通りである。

10月12日(木) 開講式、10月13日(金) 授業開始、冬季休業12月25日(月)～1月8日(月)、1月9日(火) 授業再開、3月1日(木) 修了式。春季休業中、希望者は全学向け春季集中日本語講座（2月13日(火)～2月28日(水)）を受講した。見学旅行は、修了式後の3月2日(金)にバスで奈良（東大寺、法隆寺）を訪れた。

4. カリキュラム

未習クラスのカリキュラムは54期の内容とほぼ同じであったので省略する。

本国で学習をしてきた学習者（7人）も、プレースメントテストの結果ではほぼ初級の最初程度のレベルであったので、はじめの1週間は特別クラスとして授業を行ったが、2週目以降は未習者と同じカリキュラムとした。

5. まとめと問題点

(1) 今期日韓理工系留学生をのぞく15名の内、名古屋大学進学者は7名、他大学8名であった。他大学の方が多い状況ははじめてであった。今回、日本語学習のみならず、いろいろな問題で不適応のみられた学生もいたが、相談部門での対応など、本学でのバックアップ体制は整ってきていると感じた。

他大学進学の学生も、遠距離であるため指導教員と頻りに会えないところをこちらでどのようにカバーできるか、改善の方策の必要がある。

以下では付記として、後期に受け入れ、午後1コマのみ日本語の特別授業を行っている法学研究科留学生に対する特別日本語コースについて述べる。

付記：法学研究科留学生に対する特別日本語コースについて

平成18年度に法学研究科の受け入れた12名のうち、6名については日本語研修コースで初級から研修を行った。残りの6名については、1名は日本語は必要とせず、残りの5名が午前中全学集中日本語コース、午後1コマは日本語研修コース担当講師による特別授業を受講した。

1. 受講生

JDSの学生5名は、これまでと同じく本国で350時間程度、7月に来日後120時間程度の日本語学習を行っている。したがって、午前中の全学向け日本語プログラムでは、中級前半レベル受講生が4名、中級後半レベル受講生が1名で、日本語運用能力には多少の差があったが、前年度ほどではなかった。この他に、法学研究科特別コースに所属する学生2名もこの午後の特別日本語コースに参加したが、1名については平成19年の1月はじめに帰国し、インタビュー活動、最終テストは受験していない。以上7名でこのコースは構成され、本年度も読解力を伸ばすことを目的にカリキュラムデザインを行った。

2. 時間割と日程

2006年10月16日(月)から2007年1月31日(水)までの63日間は授業を行い、2月1日(金)は最終テストとした。冬季休業期間などは全学向け日本語プログラムと同じである。時間は、毎日13時から14時半までの1コマである。

3. 担当講師（留学生センター）

日本語研修コース担当講師 4名

4. カリキュラム

このクラスの目標は昨年と同じであるが、学生のアンケートをもとに内容を変更した。

- ・専門課程での教育に入る前段階として、日本に関する基礎的な知識を、読解、発表、作文、総合的な演習を通して養成する。

学習内容

読解：VTRなども使用し、日本社会、歴史などについて学ぶ

9の素材の精読と、漢字300の学習

- ・日本の自然（話し言葉、書き言葉の確認作業）
- ・日本の人口構成
- ・日本の歴史
- ・日本の会社
- ・日本人の伝統的な価値観
- ・日本の政治
- ・ペットは家族の一員
- ・技術立国日本の象徴“ロボット”
- ・日本国憲法の平和理念

演習：テーマを設定し、日本事情について学ぶ

- ・日本の地理 日本人の持つ地理的な常識の紹介
- ・外国人労働者 日本社会への理解を深める
- ・裁判員制度 新制度の紹介

話す練習：トピックを自由に決め、一人ずつ話す授業

総合演習(1)：本国の歴史上の人物について、書いて発表する

総合演習(2)：インタビュー活動と発表

インタビューにより情報を集め、資料を作成し口頭発表を行う活動である。今回は、名古屋地方裁判所、弁護士事務所、愛知県警察所を訪問し、1時間程度のインタビューを行った。

5. まとめ

昨年度17年度から午後1コマだけの授業となり、圧倒的に時間数が少なくなったが、今年度も読解を中心としたカリキュラムとした。学生の授業への取り組みは大変まじめであり、読解に使用した日本の歴史や社会に対する興味が強いことがアンケートから伺える。インタビュー活動では専門の用語なども覚えられたことに対する評価があった。この授業内容が日本語研修後の専門教育課程での運用にどのような影響を与えているのか事後調査する必要を感じる。今後の課題とし、さらに充実したカリキュラムとしていきたい。